

# 浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成14年9月

第14号

「彼岸に思う」

どう生きるか

この事を問わずして

人生にうなづきはない

トンチで有名な一休さんが人生の相を

「世の中は稼いで食うて寝て起きて、さてその先は死ぬるばかりよ」と詠われたそうです。

まさに私の人生を上手く言い表された思いです。悲しいですね・・・

何故悲しいかと言えば、犬や猫となんら変わらぬ生き方だと思ふからです。

その上、食っちゃ寝食っちゃ寝して死ぬ間に、私にも楽しいことも嬉しいこともあるでしょうが永くは続きません。それよりも、予期せぬ事故や病で入院を余儀なくされたり、人間関係が壊れて夜眠れぬほど悩んだり、生活苦に追われる等々・・・

やはりこの世＝此岸＝苦しみ悩みの尽きない迷いの世界であります。

そこに迷いのない、明るい安らぎの世界＝彼岸を求めるのは当然のことでありましょう。

此岸（迷いの世界）から彼岸（理想の世界）に渡るには六波羅密（ろくはらみつ）という六つの実践行が必要とされています。六つの行とは

- 1) 布施（ふせ）：自分の持っているもの、出来ることを惜しみなく他人に施す。
- 2) 持戒（じかい）：決まり事をきちんと守る。
- 3) 忍辱（にんにく）：どんな苦しみ、どんな屈辱にも耐え忍ぶ。
- 4) 精進（しょうじん）：誘惑に負けず、目的に向かって進んで努力をする。
- 5) 禅定（ぜんじょう）：外界の誘惑に惑わされず精神を統一する。
- 6) 智慧（ちえ）：物事の道理をありのままに正しく観る。

以上六種の行ですが、この事を実践するとなると、どれひとつとっても至難の業です。

とてもとてもやり抜くことは出来ないのではないのでしょうか？

親鸞聖人も

「いづれの行も及び難き身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」

と悟りへの歩みが暗礁に乗り上げたことを告白し、悲しまれましたが、その聖人が大きな壁にぶつかり悶々とした生活の中に見出された揺るぎのない喜びの道が念仏の大道でありました。

彼岸会を迎える中に聖人が喜ばれた念仏の心を静かに味わっていただきたいものです。

合掌 住職

読者の広場

「1泊2日の研修会」

吉田トシエ

毎年5月、6月頃に1泊研修旅行を行いますが、今年は久しぶりにお寺にて1泊しゆっくりと親睦を致しましょうと言うことになりました。と言うのも毎々年とともに足腰の痛みを感じる方が多くなってきて、バス旅行の参加者も少ないと観光バスの都合もありますので、今年は8月8日の定例会に合わせてお寺での1泊2日を楽しませていただきました。思い出しますと、20年近く前の昭和59年9月に初めてお寺に1泊したことがありました。20年も前のことなのについて最近のような気がします。その時も20数名でしたがとても楽しく、このようなことは毎年でも良いねと思っていましたが、なかなか思うようなわけにはいかず、あっという間に20年もたち、月日の経つのが早いのに驚きます。

私たちのこれから先はもっと早いでしょう。過ぎ去った10年20年でさえもあっという間なのに、この先の1年1年、いや1日1日かもしれませぬ。これを思うと今までに数多くの法話を聞かせていただいたのに、何を聞いていたのかまだまだ迷いばかりでさっぱり安堵の道に届かないことを悲しく思います。毎回、毎回、親鸞聖人のみ教えを聴聞させていただくなかで、お念仏を喜び、和顔愛語の心を大切にす喜びを共にさせていただくことを、毎日生活していくなかでもっとも大切なことと思っております。

今回の1泊研修では、住職様に何度も法話を聞かせていただきました。ありがとうございました。最後の反省会も今までにない個人個人の本当の言葉が聞け、大変有意義な締めくくりでした。これからももっとも体の健康なうちに耳を傾けて、お念仏の喜びを味わいたいと思います。

合掌



「研修会に参加して」

高井キク

8月8日～9日と本弘寺に於いて1泊研修がありました。1泊という好条件に恵まれ、読経・法話・懇談会と2日間に渡り各々ゆっくりと時間をかけて行われ、早速ご住職からユニークなテーマで注文が飛び出し、2つのグループに分かれて各人心を開いて話し合いが出来たのは良かったです。9日の朝のご住職とご兄弟住職お3人方の読経が本堂に響き渡り、一同感動しました。また、役員の皆様方には、ひたむきなご奉仕により美味しい手作り料理など用意してくださったり、布団の上げ下げその他とありがとうございました。他では味わえない落ち着きとさわやかな充実感がとても有りがたく思いました。なお一層の親睦を深めて、親鸞聖人のみ教えに精進させていただきたいと思っております。

正信偈ひびききわたる婦人会

阿弥陀の光につつまれんことを

矢部克子